

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第31号

2013年3月15日

*** 目次 ***

1. あびこエコ農産物に関して
2. あびこ型「地産地消」推進協議会 10周年特集
3. 行事（実施報告・予定）
4. 「新年ちびっこ餅つき大会 2013」を振り返って
5. 24年度学校給食
6. 第10回あびこ型地産地消推進協議会総会
7. 編集後記

子ども達に明るい未来を・・・学校給食を通して子どもの未来を考える

パネル1

パネル4

1 安全・手作りにこだわる 我孫子市学校給食

■各校で献立を立て、校内で調理を行なう自校方式です
河北小学校（2012年9月16日） 第一小学校（2012年9月16日） 第三小学校（2012年9月16日）



チキンライス、トマトポトゼンレウ、マカロニスープ、キウイフルーツ、牛乳
ごはん、鶏のバオーじょう押焼き、野菜のごま炒め、豆乳とわかめのお味噌汁、牛乳
マーボー、大根ときゅうりの揚げ物、お魚カシュー、チリソース、フーフーフーフ、牛乳

■安全・手作りにへのこだわり

■だし外へのこだわり
（昆布、鰹、煮干し、鰹節、鰹節油など）

■手作りへのこだわり
（味噌、ハンバーグ、ドレッシング、カレー粉、カレーペースト、グラタン、ケーキなど）

■米飯給食の実施（週4回）
ガス釜による炊飯

■農産物の産地、加工食品の製造業者、賞味期限の確認・記録
■食物アレルギーへの対応
・医師の診断書に基づいて除去食に対応
■放射性物質の検査実施
・市全体で毎月100品目の食材を検査
・各校で毎週 給食1週間分の事後検査
・我孫子市内産野菜は市農政課で検査

4 地元産・地元消費の推進

■あびこ産「コシヒカリ」を年間を通して使用
—1年間に約110,000kg使用
■「あびこ産野菜の日」を設け毎月2～4回使用
■体験授業（河北台西小学校の例）
・谷津田での
田植え体験



（あびこ型「地産地消」の推進協議会として）

1. あびこ産農産物の学校給食への安定供給のため、「学校給食コーナー」を中心に、農家と学校との調整
2. 「あびこ産野菜の日」に市内の小中学校給食へ野菜運送の実施
3. あびこ産農産物を使った新メニューの開発
（トマトスープご飯を学校給食で実施）
4. あびこ産農産物を使った「食育親子料理教室」を開催
（米粉料理、みそ遣り、漬物遣り）
5. 農家との交流イベント開催（子ども餅つき大会、採って食べよう核豆・トウモロコシ）

これらを通して子ども達の食育を応援していきます。

我孫子市消費生活展

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫
住所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4（営業日：月・火・木）
Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771
E-mail abikochisanichisyokyo@sky.plala.or.jp
URL <http://www.15.plala.or.jp/chisan/>

1. あびこエコ農産物に関して

1. エコ農産物を新たに設定 あびこエコ農業推進基本計画を作成中です ・ ・ ・ ・ ・ 市農政課

市では、「あびこエコ農業推進基本計画」を平成25年3月末日までに策定する予定で準備をしています。2月5日から3月6日まで「あびこエコ農業推進基本計画（案）」について市民の皆様からご意見を頂戴するためのパブリックコメントを実施しました。

化学合成農薬と化学肥料の使用量を減らすエコ農業（環境保全型農業）は、自然環境への負荷の低減や、安全・安心な農産物の消費者への供給などのため、さらなる普及・促進が必要とされています。

「あびこエコ農業推進基本計画」では、生産者と消費者、農業関係団体、行政が連携しながら環境保全型農業を普及・促進するための基本的な方針を示しています。「あびこエコ農業」において育成・普及することとしている「あびこエコ農産物」とは次の①と②を総称したものです。

①「千葉県の慣行栽培基準」*から、化学合成農薬・化学肥料の使用量を20%以上低減した農作物を、市独自に認証したエコ農産物

※「千葉県の慣行栽培基準」・・・(注)特別栽培農産物に係る表示ガイドライン(農水省が平成19年3月23日改正)に基づき、千葉県が定めた慣行レベルその農産物が生産された地域の慣行レベル（各地域の慣行的に行われている節減対象農薬及び化学肥料の使用状況）。

②国や県などで認証している、有機JAS農産物、特別栽培農産物、ちばエコ農産物、エコファーマー農産物など既存のエコ農産物

「あびこエコ農産物」認証休止の経緯と今後の事業の構築

「あびこエコ農産物」の認証事業は、平成16年からあびこ型「地産地消」推進協議会で実施していましたが、平成20年に認証ミスが発生したことから休止となっていました。

このことから、農薬等の専門知識をもった職員を中心とした体制をつくり、市で認証事業を構築することとしました。

「あびこエコ農業」の推進の拠点は、今後整備を予定している農業拠点施設としており、「あびこエコ農産物」の認証事業は、この拠点施設の整備とあわせて本格的に実施することとしています。

この他にも、専門知識をもった農業改良普及員等の職員による支援や、有機質資材等の導入支援、学校給食や商工業者等での活用支援など、さまざまな施策を充実していきます。

あびこ型「地産地消」推進協議会会員の皆様には、市と協働して、農家には手間のかかる取り組みである環境保全型農業の推進のため、「あびこエコ農産物」の普及・PR、援農ボランティアにおける連携等にご尽力・ご協力を賜りたくお願いいたします。

2. 「あびこエコ農業推進基本計画（案）」についての説明会（農政課）

日時：平成25年2月12日（火） 午後2時～4時

場所：我孫子市民プラザ

説明会冒頭に、徳本農政課長より本計画を「中身の伴う運動として推進したい」との挨拶がありました。本計画についての説明を農政課飯泉氏より行われ、その後質疑応答が消費者・生産者・学識経験者などより活発な質疑応答が行われました。

・説明 平成16年1月～20年6月まで行われていた「エコ認証制度」がなぜ破たん中止に至った経緯の話後に基本計画に対する説明があった。

①計画策定にあたって

②環境保全型農業の普及・促進の必要性

- ③我孫子市における環境保全型農業の現状と課題
- ④環境保全型農業のこれまでの取組み
- ⑤「あびこエコ農業」の推進計画
- ⑥東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う環境保全型農業の取組みへの影響と対応

2. あびこ型「地産地消」推進協議会 10周年特集

当協議会は平成16年1月に設立されましたので 本年が10年目となります。この間、たくさんの方々が「地産地消」の活動に参加され、現在に至っております。以下はその概略の年表・データです。

また「楽しい思い出」を寄稿して下さった萬木 勇^{もろき}さんは援農ボランティア第1期養成講座を受講してのち現在まで援農ボランティアを継続し、実行委員・運営委員も務められた先輩です。

1. 協議会 10年の歩み

(市農政課・広報部)

- | | |
|--|--|
| <p>平成 15 年 (2003 年) 7/18</p> <p style="padding-left: 100px;">7/31</p> <p>平成 16 年 (2004 年) 1/24</p> <p style="padding-left: 100px;">4/25</p> <p style="padding-left: 100px;">7/01</p> <p style="padding-left: 100px;">8/21</p> <p>平成 17 年 (2005 年) 1/31</p> <p style="padding-left: 100px;">4/19</p> <p>平成 18 年 (2006 年) 3/08</p> <p style="padding-left: 100px;">4/15</p> <p style="padding-left: 100px;">6/27</p> <p>平成 19 年 (2007 年) 1/06</p> <p style="padding-left: 100px;">2/10</p> <p style="padding-left: 100px;">4/24</p> <p style="padding-left: 100px;">6/01</p> <p>平成 20 年 (2008 年) 4/24</p> <p style="padding-left: 100px;">6/11</p> <p style="padding-left: 100px;">10/18</p> | <p>「地産地消」推進協議会(仮称)準備会開催</p> <p>第1回世話人会を開催(全10回)</p> <p>発会式及び設立総会(第1回)を開催</p> <p>規約・「あびこエコ農産物生産基準運用細則」を制定し、認証シール発行開始。</p> <p>「あびこ農産物即売会」アピスタ前広場で開催。
以降毎月第2、第4日曜日に開催</p> <p>会報 第1号発行</p> <p>第1期「援農ボランティア養成講座」を開講(以降毎年開催)</p> <p>「あびこ直売所マップ」の完成</p> <p>第2回定期総会と講演会「地産地消活動を動かす!」を開催規約改定</p> <p>市内小中学校に「我孫子産野菜」の搬送を開始(モデル:湖北小・新木小・湖北中)</p> <p>第3回定期総会と講演会[「地産地消活動」と食農のすすめ]を開催</p> <p>協議会ホームページを開設</p> <p>食育講座もちつき大会開催、こののち毎年「新年餅つき大会」開催</p> <p>我孫子市消費生活展に参加以降毎年参加</p> <p>第4回定期総会とフォーラム「市長と語る あびこ型「地産地消」の発展について」を開催</p> <p>あびこ農産物直売所(我孫子新田)オープン</p> <p>第5回定期総会とフォーラム「講演:当協議会の活動について、パネリスト:消費者・生産者が期待するあびこ農産物直売所」を開催</p> <p>エコ農産物認証シール発行休止</p> <p>第1回新規就農講座開催</p> |
|--|--|



H16年アピスタ前広場

	11/05	第1回「我孫子市における安全・安心・新鮮農作物の供給及び表示のあり方」検討委員会参加(全8回)
平成21年(2009年)2月		「援農ボランティア実施基準策定」
	5/27	第6回定期総会と講演会[①安全・安心農作物の認証表示②生産者の顔の見える給食]を開催
	7月	ホームページ大幅改定
平成22年(2010年)3/01		援農ボランティア体験制度開始
	5/26	第7回定期総会と講演会[採れたての野菜は何故おいしいか?]を開催工コ農産物認証制度中断に伴う規約改定と部会組織再編
平成23年(2011年)5/25		第8回定期総会と会員懇話会を開催
	10/08	「あびこ農産物直売所あびこん」リニューアルオープン
平成24年(2012年)4月		学校給食支援 小中学校11校へ月2回地元野菜を搬送
	5/19	第9回定期総会と講演会・パネディスカッション[学校給食について]を開催
	11月	あびこ農産物直売所マップホームページに掲載

2. 10年ひと昔前の楽しい思い出

援農ボランティア1期生 ^{もろ} 木 ^き 勇

①援農ボランティア員募集にチャレンジして

私が67歳の時、巨人軍の長嶋元監督が脳こうそく?で倒れられ全国的に話題になっていた時でした。私は彼と同年代なので女房が心配して「健康が第一なので仕事をやめたら」と強く言うので、残念ながら仕事は後輩に譲りやめました。仕事をやめ毎日ブラブラして退屈でしよがなかつた時です。あびこ市公報に援農ボランティア募集があつたので早速応募し、市役所会議室で新入会員の研修がスタートしました。

研修の内容は、地産地消協議会の会長である遠藤会長が元大学教授らしい講義と更に茨城大学教授による講義で、農業を理論的に教えられ充実した内容でした。

若い大学時代を思い出した非常にフレッシュな体験だったと思います。

②援農ボランティア活動について

当時お世話になった受け入れ農家の数はわずか7農家だったと思います。(Aさん、Fさん、Nさん、Sさん3名、Tさんかな) 全く素人なので身支度から教えてもらいました。長靴、地下足袋、ビニールの手袋、軍手、作業用ズボン、ビニールのズボン、シャツ等徐々に身の回りをかためていきました。マルチの



援農ボランティアでの休憩中(杉浦夫妻と)

意味も知らなかつたし、切つてはいけないうえを切つたりして、おそらく私が作業した後のフォロー・修正するのが大変だったと思います。おかげさまで10年経ちましたが当時の農家の皆さんとの間柄は何の悩みもなく今でも頼まれれば喜んで直ぐ行ける皆さんばかりです。

会社生活時代は自宅と東京の往復の生活でしたので、自宅周辺の飲み屋等全く知らず無関心でした。それが現在はお陰様で我孫子の飲み屋その他色々なものが身近になり喜んでおります。

当時の交通費300円は商品券でもらっておりました。現金ではありませんのでその使用方法は限られておりました。アピスタ玄関前のテントを張つた農産物即売所に行って、その商品券で農産物を購入する方法しかありませんでした。その即売場は農家の方とボランティアの皆さんが販売活動

をされており、その中には現在援農活動をされている1期生の玉造さん、今関さんが居られました。

③地産地消協議会について

遠藤会長より依頼され運営委員になりました。毎月1回、夜3時間程度の会議で運営は市農政課が中心でした。メンバーは農家側では鈴木 誠さん、野口さん(故人)、援農ボランティア側は^{はす}蓮さん(故人)、秋保さん(故人)、^{もろき}萬木とその他3名ほどだったと思います。会議の内容は、まだ専門部会の活動がなかったため、話題は遠藤会長の理想の農業の話だったと思います。例えばエコ農産物(プラチナ、ゴールド、オレンジ、緑)の話とか、遠藤会長が研究されていたと思われる農業を理論的にまとめあげた解説等レベルの高い話だったと思います。

④援農ボランティア部会の活動について

これも遠藤会長に頼まれ実行委員になりました。^{はす}蓮さんが会長で会議は2月に1回、昼間1時間程度でこれといった内容は論議してなかったように思います。多分その運営は市農政課がやっていたのではないのでしょうか。ただ一つだけ記憶に残っているのは援農ボランティア活動の交通費300円は商品券だったのですが、何か法に抵触するということで論議し、今嶋さんの発案で現在の現金支給300円に変更になった程度です。当時と比較すると現在の活動は格段の発展だと思い感服しております。リーダーの皆さんのご活躍は目を見はるばかりです。

以上

3. 行事（実施報告・予定）

1. 実施 報告

①「忘年情報交換会 2012」

去る12月8日(土)、受入農家の方々、援農ボランティアの皆さん、我孫子市の星野順一郎市長、農政課の方々等、大勢が出席されて盛大に行われました。今年は、市民プラザ(エスパ3階)が会場であったため、軽食等の準備も、担当者の方々が調達に奔走して下さり、どのテーブルも華やかに彩られておりました。又、農家の方々からも飲み物等を沢山差入れて頂きました。会の成功のためにご尽力頂きました関係者の皆様に改めて深謝いたします。今回は、立食形式という、今までにない新鮮なスタイルのためか、参加者の皆さんは自由に会場内を歩いて移動し、様々な人と飲み物を注ぎ合いながら、この1年の活動を振り返



忘年情報交換会宮本部長挨拶

ったり翌年への抱負や希望を語り合ったりして、フロアのあちこちに笑顔の花が咲いておりました。協議会には、実に様々な人が集まり、大きな輪が広がっていることを改めて実感致しました。私自身、普段はなかなかお会いする機会がない方々とお目にかかることができ、参加させて頂いて良かったと思いました。そして、終了時間前には、後片付けやゴミ分別の作業を参加者全員が手分けして行い、最後まで“協議会らしい”爽やかな忘年会となりました。

(川田)

②我孫子市民フェスタ ―ボランシカ つながりからひろがりへ―

今年から催しは名称を変えて12月1日(土)2日(日)にアビスタ・手賀沼公園で開催されました。地産地消協議会からはアビスタ1階ホールで「エコ農産物とあびこんの生産履歴チェックシステム」「地産地消活動」「援農ボランティア」等の紹介パネル4枚を掲示し活動をアピールしました。又1日(土)のみですが新規就農者4名が農産物の即売会を出店しました。12時前後に突然の集中豪雨に見舞われましたがほぼ完売をしました。



③消費生活展

アビスタ前(チーバ君と)

第37回我孫子市消費生活展が2月10、11日(日・祝)あびこ市民プラザ(あびこショッピングプラザ3F)で開催されました。(来場者672名)「子どもたちに明るい未来を」をテーマに9団体が参加し「地産地消」推進協議会は「学校給食を通して子どもの未来を考える」と題し4枚のパネルにて発表しました。(表紙に次のaとdの2枚を掲載)

a、我孫子市の学校給食(小・中学校)の特徴は週4回の米飯給食と各校でつくる自校方式です。

学校ごとにメニューも異なり安全手作りにこだわっています。

b、栄養バランスのよい日本食中心のメニューの実践。

c、季節の伝統行事に合わせ食文化の継承を心がけています。

d、「地産地消」の推進として給食に年間約110tのあびこ産「コシヒカリ」を使用。また「あびこ産野菜の日」を設け月2~4回旬の野菜を使っています。

当給食支援部会ボランティアによる各校への搬送はご存知の通りです。

当推進協議会のパネルをご覧になった方々からのご感想として、

- ・我孫子市の学校給食の仕方、提供の仕方、地元の農作物・素材など素晴らしい。
- ・我孫子市産の米をこんなに使っているとは知らなかった。
- ・自分達の時代と違って美味しそう。私も給食を食べてみたい。

などの声が寄せられました。

全体を通しては、来場者数が昨年より若干減少したものの小さな子ども連れのご家族の来場が多く、各団体のパネル発表の他「人形劇、腹話術」などの催し物や「紙工作コーナー」で長時間楽しむご家族が多くいらっしゃいました。

今回、学校給食にフォーカスすることで、これからも

「地産地消」推進協議会として地元の農業と子ども達に対する食育を支援する事の重要性を強く感じました。



あびこ市民プラザ 地産地消コーナー

(田辺)

2. 今後の予定・・・新緑あびこんフリーマーケット

開催月日：平成25年4月27日(土)午前10時~午後3時

開催場所：あびこ農産物直売所あびこん

催し：・地元農家の作った苗の販売

・手作り商品のフリーマーケット

・プロが応える家庭菜園実地指導と相談会

・他模擬店

4. 「新年ちびっこ餅つき大会 2013」を振り返って

当協議会主催の最大イベントの「新年ちびっこ餅つき大会」が1月19日（日）に、穏やかな好天に恵まれた下、あびこ農産物直売所あびこんにて開催いたしました。

最大イベントの餅つき大会は、餅つき数量をたくさんの子供さんに餅をついて頂けるように今回は増量し、総量30kgを8回に分けてつきました。

10時の開始早々、太鼓の演奏で雰囲気をもりあげて頂きましたので、子供さん、お母さん、お父さんたちの列が早くも出来、餅つきの番がくると太鼓に合わせ「ヨイショ」とお母さ達が掛け声をかけあい、初めて持つ杵にうれしそうな顔、戸惑っているお子さんの様々な表情が見受けられ、その瞬間のシャッターチャンス逃すまいと写真撮影に没頭するお母さん、お父さんの光景が今でも目に浮かんできます。スタッフも一緒に感動致しました。

その間、星野市長がご多忙中にも拘わらずお見えになり、力強く餅つきをして頂いたり、更に、「ゆるキャラ」と親ごさんと一緒に撮影にご協力して頂くなど大会を大いに盛り上げて頂きました。

ついたお餅を、今回はお汁粉に統一させて頂き不安もありましたが、お陰様ですべて完食となりました。

また、ちばエコ推進の為、お椀とお箸の持参をお願い致しましたところ、多くの皆さまにご協力を頂き有り難うございました。

今大会は、昨年好評のイベントの川村学園大学の学生さんによる夢のある「アートバルーンの製作」、あびこふるさと会によるお正月の風物詩「和太鼓・獅子舞い」、市役所農政課による昔懐かしい「ポップコーンの配布」等をボランティアで参加して頂きました。



子供と餅つき

新企画イベントとしましては、あびこネットワークによるあびこ産の「みかんの皮むき比べ等」、当協議会会員の発案による「チーバ君」、「カッパ君」等4体の「ゆるキャラパレード」を導入したことです。

「ゆるキャラパレード」は、子供たちに大変に人気があり、握手攻めや写真撮影等もあり、スタッフの方々は大わらわでした。

加工品販売コーナーは、NPO法人みんなの広場「風」の子供さんたちによる手作りの「うどん・ケーキ・みそ」販売、ハリオンによる「カレー」販売、その他「コーヒー店」、「焼き鳥店」、「花店」、「魚店」等販売店のご協力・出店により大会を盛り上げて頂きました。更に加工品販売として、当協議会による初の試みとして「磯辺焼き」の出店販売を実施し、完売することが出来ました。

今大会を振り返ってみますと、無事故にて大会が終了出来ましたこと、更に来場者が、昨年の2千人を上回る多くの方々にご来場を頂きましたことは、これもひとえに我孫市内でご活躍の関係団体の方々のご理解ご協力と、お忙しいなかにも拘わらず、参加・出店して頂きましたことの賜物と感謝しております。

更に、スタッフとしてご協力頂いた協議会員並びにあびベジ会員の農家さん及びあびこん農産物直売所の方々、協議会会員のスタッフの方々、3ヶ月も前から企画・運営に携わって頂いた一関係団体並びに今回の実行委員スタッフの方々に、主催者として心から感謝申し上げます。

協議会会員の皆様、あびこ型「地産・地消」推進協議会の催事に「ボランティアスタッフ」として参加され、ボランティア活動の感動を一緒に味わってみませんか。より多くの同志の方々を募集しております。

白澤実行委員長

5. 24年度学校給食

- ・当協議会会員が「あびこ産野菜」の学校への搬送を平成18年の3校からはじまり、7年経ちました。
- ・平成24年度は、11校の小中学校に18回／年間の納入を実施し又4校にスポットで納入しました。
- ・今年度の納入量は前年度を大幅に増加することが出来ました。

1. 平成24年4月～25年3月の累計納入金額 (円)

平成23年度 実績	平成24年度 目標	平成24年度 実績	実績／目標 比
2,048,000.	3,00,000.	2,941,000.	98.0%

2. 平成23年度／平成24年度 比

種別	平成23年度	平成24年度	24年度／23年度比
納入金額	2,048千円	2,941千円	144.0%
納入学校数	11校	15校	4校増
納入数量	5,541kg	9,125kg	165.0%

3. 納入学校数 小学校数 12校、中学校数 3校
4. 納入農産物(主な物) じゃがいも、にんじん、大根、玉葱、キャベツ、ねぎ、さつまいも
小松菜、トマト、里芋、きゅうり、ほうれん草、ごぼう、ブロッコリー
(山口コーディネーター)

6. 第10回あびこ型「地産地消」推進協議会総会

日時：平成25年5月18日(土) 午後1時より

場所：あびこ市民プラザ

第1部 講演会とパネルディスカッション

テーマ：力を合わせて我孫子の「地産地消」を推進しよう(仮称)

第2部 総会

第3部 会員懇親会

7. 編集後記

当協議会も平成16年に第1回総会以来10年目となり、農産物販売場の開設・会報発行・援農ボランティア養成講座開講・学校給食用農産物の搬送等の各種の活動を行ってきたが今協議会はいろいろな意味で転機を迎えようとしている。

会員全体又援農ボランティアの高齢化で協議会の活性が失われようとして一方で協議会発足当初の事業目的であったエコ農産物の新たな認証制度が我孫子市で計画されており、過去に実施し中止に至った経緯と反省を含め慎重に取り組まれることが望まれる。認証制度発足には農産物販売拠点と専門知識をもった農業改良普及員の確保が必要条件の様だが、当協議会としての様な協力出来るのか協議会としての検討も重ねたいと思う。又今国会でも話題の「TPP」はあびこエコ農産物とはどのような関係になっているのだろうか。

☆☆投稿募集のお知らせ☆☆

最近、あなたが援農で体験した、楽しかったこと、大変だったことなどを写真・イラスト・メッセージで、FAXでお寄せ下さい。本名でも、匿名・ペンネームでも、構いません。また、季節のお便りもお待ちしています。

投稿先 Fax: 04-7128-7771